第７回　理事会

日　時：令和３年11月15日(月)13：00～17：20

場　所：本学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)，伊藤副会長，清水副会長，末永常務理事，秋山，池見，稲垣，太田，大沼，奥村，小俣，北田，竹村，徳永，富岡，西山，長谷川(淳)，長谷川(信)，舩山，升元，三好，和田各理事
(理事25名中22名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認
・令和３年10月５日開催の第６回理事会の議事録案について承認した.

2. 審議事項

１)会員状況の確認
・事務局長から11月12日時点の会員状況について説明があり，６名の学生会員の入会を承認した.
・正会員1,841名，学生会員48名，名誉会員55名となり，総数は1,944名であることを確認した.

２)委員の新任について
・応用地形学研究部会より２名，土木地質研究部会より１名の新任の委員について承認した.

３)令和４年度選考特別委員会の選任について
・常務理事より，標記の説明がなされた．名誉会員・功績賞選考特別委員会ならびに論文賞選考特別委員会のそれぞれにおいて，総務委員会で選出した委員が選任された.

４)教科書執筆特別委員会の設立について
・常務理事より，標記の説明がなされた．教科書執筆特別委員会運営規程の一部に加筆した上で，特別委員会の設立について承認した.

５)投稿規程の名称変更に伴う規則および編集委員会運営規程の改定について
・担当理事より，投稿規程の名称に関する編集委員会での検討結果について，常務理事より名称変更に伴う規則および編集委員会運営規程の改定について，それぞれ説明がなされた．審議の結果，現行の「投稿規程」の「投稿規定」への名称変更，ならびに規則および編集委員会運営規程の改定について承認した.

６)訃報の学会誌掲載について
・常務理事より，追悼文および訃報記事に関する編集委員会の検討結果およびこれを受けた訃報の学会誌への掲載方法について説明がなされた．審議の結果，学会事務局に会員死亡の連絡があった事項について，学会誌「応用地質」に訃報を掲載することとなった．ただし，訃報には「会員の死亡」と直接的に記載せず，「下記の会員がご逝去されました．ここに謹んでお悔やみ申し上げます.」などと記載することとなった.

７)先端技術ワークショップ計画案について
・担当理事より，今年度開催予定の先端技術ワークショップの計画案，全国地質調査業協会連合会への後援名義使用許可依頼文書の説明がなされた．審議の結果，計画案，依頼文書の発出が承認された.
・収支見通し案については，支出に関して消費税や所得税を考慮した金額とすることや，謝礼の金額を再検討する必要があるといった指摘があった．また，依頼文書とプログラム案に記載のある全国地質調査業協会連合会の誤記を修正するよう指摘があった.
・現状で見込んでいる参加人数よりも多くの参加者に参加頂けるよう，広報を行った方が良いといった意見があった.

８)新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインの更新について
・標記の説明がなされ，審議の結果，ガイドラインを更新することについて承認された.
・「3. 基本事項」にある，「新型コロナウイルス感染症にかかる対策等の実施期間」がどのような期間を指すのか分かりづらいとの指摘があった．このため文言の追記・修正を検討することとなった.
・事務局長より，学会事務局の使用に際しては，今後も感染症防止に向けて厳正に対処するよう要請があった.

９)「土砂災害の疑問50」出版の進捗と出版契約について
・担当理事より，標記の説明がなされた．出版に向けた作業の進行状況を確認するとともに，学会と出版社(成山堂書店)の契約を行うことについて承認した.
・契約書の中で，重版の際の著作権使用料免除部数が多いとの指摘がなされ，内容を確認することとなった.

10)JABEE地球・資源分野運営委員会の運営見直し提案への回答について
・担当理事より，標記の説明がなされた．審議の結果，回答文書を提出することについて承認した．文書中の文言を応用地質学教育普及委員会で最終確認の上，提出することとなった.

3. 本部からの報告事項

１)収支状況について
・事務局長より，令和３年度９月，10月の本部収支予算について説明がなされた．９月単月では黒字決算となること，10月単月では赤字決算となるものの，通期で見た場合には黒字となっている状況が確認さ

れた.

・事務局長より，令和３年度研究発表会収支報告書について説明がなされた．前払いしていた会場費については，長崎市のその後の判断により全額が返却されたこと，参加費未納者はアクセスのためのID，パスワードが付与されないため，実質的に参加できなかったことが紹介された．今回会場を使用しなかったことにより大幅な黒字が見込まれる点については，参加費の適切性について説明できるようにしておくこと，次回以降の参加費について事業企画委員会，理事会で継続して議論していくことが確認された.

２)日本応用地質学会表彰結果のプレスリリースについて

・担当理事より，標記の説明があった．第１回表彰の際のプレスリリースに対するアクセスと同程度のアクセス数であることが確認された.

３)研究不正を行った元会員関連論文の調査結果について

・担当理事より，標記の説明があった．論文不正に認定された９編の論文には学会誌に掲載された論文は引用されていないことが確認された.

４)Facebookの試験運用状況について

・担当理事より，標記の説明があった．Facebookの閲覧状況の調査結果から，賞の情報(優秀講演者賞，若手講演者奨励賞，日本応用地質学会表彰)は多くの閲覧がある傾向が確認された.

・現状では閲覧数が総じて多くないものの，今後も試運用を行い，正式運用に向け準備していくことが確認された.

５)令和３年度研究発表会表彰について

・担当理事より，標記の説明があり，表彰対象者が確認された.

・研究発表会の結果について報告がなされた．平成22年に松江で開催された研究発表会の参加人数を上回る327名の参加があり，これは最も多い参加者数であるとのことであった.

・オンライン開催でのトラブルとして，２件がプログラムの予定の時間内に発表できず，このうち１件は別日に発表がなされたこと，参加者のうちの一部がZoomでの参加時に画面共有をしてしまうことで講演者が共有できない事態があったことが紹介された.

６)防災教育に関する窓口について

・常務理事より，標記の説明があった．議論の結果，日本地球惑星科学連合からの防災教育に関する窓口として，清水副会長と末永常務理事である旨，回答することとなった．必要に応じて，災害地質研究部会等と連携を図ることとなった.

７)令和４年度シンポジウムについて

・担当理事より，標記の説明があり，シンポジウムの企画案を確認した.

・開催日時としては，総会と同日とすることとし，特別講演，話題提供，パネルディスカッションでの講演者の都合を確認することとなった．また会場は，今年度と同様に東京大学柏キャンパスと埼玉大学の両者を候補として検討することとなった.

・学会誌の２月号会告として，シンポジウムのテーマと主旨について原稿を作成する必要があり，後日対応の連絡があるとのことであった.

８)令和３年度前半執務状況について

・長田会長，伊藤副会長，清水副会長，末永常務理事より執務状況の提出があった.

９)日本地球惑星科学連合学協会セッションについて

・昨年度と同様に，学協会セッション「湿潤変動帯の地質災害とその前兆」へ共催することが報告された.

10)日本学術会議の活動と運営について

・常務理事より，標題の件について説明があった.

11)防災学術連携体シンポジウムについて

・稲垣理事より，発表の概要について説明があった.

・稲垣理事の発表を受けて，総務省行政評価局から問い合わせがあり，対応した旨が報告された．今後もコミュニケーションを取っていくことが確認された.

12)日本工学会理事推薦への対応について

・常務理事より，本学会からは理事立候補を辞退することが報告された.

13)他学協会からの依頼

・土木学会「第27回地下空間シンポジウム」への後援名義使用について，総務委員会において承諾したことが確認された.

・熊本大学より「第11回土砂災害に関するシンポジウム」への後援名義使用について，総務委員会において承諾したことが確認された.

・防災科学技術研究所「2021年度土砂災害予測に関する研究集会」への後援名義使用について，総務委員会において承諾したことが確認された.

・常務理事より，日本地球惑星科学連合「男女共同参画実態調査(大規模アンケート)」について説明があった．内容について確認するとともに，ニューズリスト，ホームページで広報することとなった.

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

１)総務委員会

・常務理事より，11月２日開催の委員会議事録(拡大総務委員会)が提出された.

・令和４年度の研究発表会会場となる関西大学の確認結果とともに，現在総務委員会内における協議事項として，九州支部・関西支部・事業企画委員会の研究発表会に関する三者会議，支部運営規程，会員種別・会費に関するワーキンググループとCPDに関するワーキンググループの活動について報告された.

2）国際委員会

・担当理事より，10月20日開催の委員会議事録が提出された.

・10月７日に開催されたIAEG Council Meetingは千木良顧問含め４名参加したこと，今後韓国や台湾に発信できる英語のコンテンツを充実させていくことの紹介があった.

・KSEGの合同セッションに中国が参加しなかったことについて，議論があった.

・和田理事から，韓国・台湾ナショナルグループとの交流の中で，ダイバーシティに関する取組が分かれば情報共有して頂きたい旨，要請があった.

3）研究企画委員会

・担当理事より，10月20日開催の委員会議事録が提出された.

・一家に１枚ポスター企画で作成したポスターのコンテンツは，学会版として完成させることになった旨の紹介があった.

4）災害地質研究部会

・担当理事より，令和３年応用地質技術実践講座「災害地質―役立つ災害地質の知識―」の開催報告があった．2021年７月１日～２日，2021年９月23日～24日の２回に座学として対面とオンラインのハイブリッドの講義，10月21日～22日に主に対面による(Web参加も含む)「災害地質演習講座」が行われたことが報告された.

5）社会貢献と魅力発信に関する特別委員会

・常務理事より，11月２日開催の委員会議事録が提出された.

・特別委員会の今後の活動として，オンラインを活用した活動内容が複数提案されるとともに，各支部での活動も今後共有していくこととなったことが紹介された.

6）将来構想検討特別委員会

・常務理事より，11月９日開催の委員会議事録が提出された.

・教科書執筆WGが今後特別委員会となることを踏まえ，理事会提出書類等の準備を行っていること，講習会の充実に向け，委員会・研究部会・支部等へのアンケートを行った結果を取りまとめていること，これまでに提案されている18の活動方策の関連性の分析結果から，４つのグループに分類し，それぞれへの対応を検討していることが紹介された.

5. その他

・太田理事より，中国四国支部でダム地質カードカレンダーを高校に配布したことが紹介された．概ね反応が良く，中には非常に興味を持った教師もいらっしゃったとのことであった．他の支部でも，配布を検討してはどうかとの意見が出された.

・次回理事会は12月23日13時から開催することとした．事前の状況にもよるものの，対面の理事会が開催可能であり，学会事務局に収容できない人数の参加が見込まれた場合には，会議室を借りて開催することとし，終了後懇親会を開催する予定とすることが報告された.